

# 世界遺産と日本遺産を訪ねて

石川には世界遺産はありませんがユネスコ無形文化遺産として、「奥能登のあえのこと」のほか、「山・鉾・屋台行事」として青柏祭の曳山行事が登録され、「伝統建築工匠の技 木造建築物を受け継ぐための伝統技術」として縁付金箔製造が登録されています。まずは近くにある遺産に注目し、応援・支援の意味も込めて訪れてみてください。

## 「世界遺産」登録とは？

1972年、ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき、顕著で普遍的価値の建造物や遺跡、景観などが優れたものに対し、世界文化遺産、世界自然遺産、世界複合遺産の3つに分類して登録されます。

また、2003年にユネスコ総会で採択されたのが「無形文化遺産の保護に関する条約」で、伝統や表現、芸能、社会的習慣、儀式や祭礼行事、伝統工芸などの技術といった、無形のものに対して登録を行うユネスコ無形文化遺産です。

## 「日本遺産」認定とは？

文化庁が2015年に認定制度を開始したもので、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化や伝統の語り部となりうるストーリーのある遺産に対して行います。世界遺産と異なり、歴史や風習、地域性などのストーリーを認定するというものです。

認定による効果で地域の認知度が上がり、地方創生が期待されるというものです。

菅沼



小規模だがかつての生活の面影が色濃く残る菅沼集落



塩硝の館では江戸時代の主産業だった塩硝作りの工程を紹介



五箇山に伝わる生活用具などを展示する五箇山民俗館

富

山県南砺市の奥山、庄川沿いに位置する五箇山は、源平の戦いに敗れた平家の人々が隠れ住んだという伝説が残り、江戸時代には加賀藩の流刑地でもありました。豪雪地帯であるため、雪の重みに耐える頑丈な骨組みの合掌造りの住まいが残り、岐阜県の白川郷と並び、五箇山の相倉と菅沼の集落が世界文化遺産に登録されています。

庄川から少し離れた段丘にある相倉は、23棟の合掌造りが並ぶ五箇山最大の集落。一方、庄川の右岸に位置する菅沼は9棟の合掌造りが立つ小さな集落です。緑深い山々や清らかな小川、田畑と茅葺き屋根の合掌造り家屋が織りなすまるで民話のような世界。いずれの集落も険しい地形によって周囲と隔絶され、時が止まっているかのような日本の原風景が広がっています。今も人々が静かに暮らす、のどかな山村を訪ねてみましょう。

相倉



合掌造りの多くは江戸後期から明治期にかけての建築

世界文化遺産  
富山・南砺

おとぎ話のような日本の原風景が残る

五箇山合掌造り集落

五箇山の国指定重要文化財を見学



「国指定重要文化財 岩瀬家」。五箇山最大の規模を誇る合掌造りを公開。〒南砺市西赤尾町857-1



いろいろ端で五箇山や建物について説明が聞ける



いろいろ端では当主がこきりこの唄を披露



「国指定重要文化財 合掌造り村上家」。約350年前の合掌造りを公開。〒南砺市上梨742



合掌家屋の民宿では、昔の暮らしを体験できる



相倉民俗館ではクギをいっさい使わない合掌家屋の構造も見られる

DATA

☎ 0763-66-2468(五箇山総合案内所)  
 📍 富山県南砺市相倉(相倉集落)、富山県南砺市菅沼(菅沼集落)



伝助穴子の焼き霜、水菜お浸し、大根酢漬け、酢橘ジュレのせ。器は西岡小十の朝鮮唐津



棚田米を直前に精米し、土鍋で炊く。蓋を取ると甘い匂いがふわり。香の物と純烏骨鶏の半熟卵を添えて



一本杉通りにある建物は築80年ほどの元万年筆店を改装。登録有形文化財に指定されている



伝統的な左官で仕上げた土壁や拭き漆の柱、タモ材のカウンター、長時間座っても疲れないカンティハウスのチェア。お客が非日常を楽しむための配慮がいたるところに

**主** 人の川嶋亨さんは大阪や京都で茶懐石、出汁、日本酒、接客など日本料理を学び尽くし、令和2年7月、故郷の七尾に開業。一年足らずでミシュラン一ツ星とグリーンスターを獲得。「能登」を駆使した技量が冴える。

「能登の食材のポテンシャルをいかに引き出すか。手をかけ過ぎないシンプルな料理が一番だと思います」。そんな川嶋さんが第一とするのは最上の出汁を引くこと。特注の鰹節や昆布、中島町に湧く超軟水を使う。コースの始まりにはお客に出汁をテイステイングしていただく。「もう一つ、思い入れが強いのはお米。中能登の棚田と能登島の自然栽培米を使っています。中能登では田植え、稲刈り、はぎ干しを農家さんと共に作業します」。妥協のない姿勢は料理、器、内装など万事に貫かれている。「見えないところを、本質的なものを突き詰めたんです」。

**DATA**  
 ☎ 0767-58-3251 住 石川県七尾市一本杉町32-1  
 時 18時30分一斉スタート、昼は水曜のみ営業12時一斉スタート  
 休 不定休 席 カウンター8席 P なし  
 料 夜季節のおまかせコース1万8150円~/ 水曜昼8085円~

ユネスコ無形文化遺産  
和食  
石川・七尾

能登の最良を活かし、日本料理の本質を探究

いっほんすぎかわしま  
一本杉川嶋



甘鯛の真薯、人参、法蓮草、白髪葱と。椀は大崎庄右工門の輪島塗



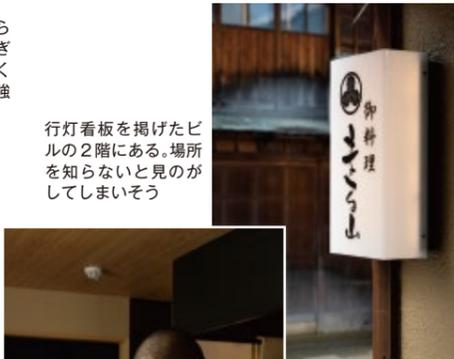
中川一辺陶作の土鍋で炊いたうすいえんどう豆のご飯



蒸し鮑、のと115(椎茸)をしのぼせた蒸し胡麻豆腐、雲丹入り木の芽餡



志賀町西海漁港から仕入れる能登うなぎの炭火焼。限りなく天然ものに近い力強い味わい



行灯看板を掲げたビルの2階にある。場所を知らないと見のがしてしまいそう

素材と真摯に向き合う店主・西田さん



ビルの外観からは想像できない洗練された和の空間。白木のカウンターが清々しい

**令** 和2年12月、西茶屋街に開業早々、食に譲歩をしない金沢人をざわつかせている。「日本料理は郷土料理。まず、土地の風土を理解することが大切」と語る店主、西田樹夫さんはこの道30年近く。北陸の豊かな食材に惹かれ、割烹を営んでいた宮古島から移住した。料理は日本の正統。利尻昆布、鱈節、鮭節から引く出汁を料理に合わせて使い分け、地物について研鑽し、巡る季節へ敬意を払う。伊万里の渡邊心平、九谷の須田菁華、伊賀の小島陽介など器遣いにも西田さんのセンスが光る。「北陸の魚介、野菜、米を使うのは本当に楽しい。金沢というカラーを出していきたい」と言い、「まる山らしさ」を美しく描く。金沢が誇りたい料理人がまた一人、誕生した。

DATA

☎ 076-256-3438 住 石川県金沢市野町2-25-24 2階  
 時 18時~20時30分(最終入店)、土・日曜は昼も営業12時~、 HALFコースのみ。いずれも完全予約制  
 休 月曜、ほか臨時休業あり 席 カウンター9席、個室あり(鮎さしんと共用)  
 P なし 料 夜おまかせ(11品)9900円~、 HALFコース(4品)+お好み一品6000円/昼 HALFコース(5品)6000円~

ユネスコ無形文化遺産  
和食  
石川・金沢

料理人の真摯と感性が息づく、「郷土料理」の極み

お り ょ う り  
御料理 まる山 やま



春を先取りする細魚、甘海老の造り、平目の昆布締め



冬に旬を迎える、脂ののった銀だらの柚庵焼



輪島塗椀に盛った蛤の真薯。京人参と鶯菜添え



園内にある裏千家の祖、千仙叟宗室が指導した瀧雪亭露地にちなむ個室「仙叟の間」



歴史ある名園、玉泉園内に立つ玉泉邸

**玉** 泉園は江戸初期に造られた加賀藩上級武士脇田家の上下二段式池泉回遊庭園。作庭は、特別名勝の兼六園より古い。園名は恩人である2代藩主の正室玉泉院にちなむ。建物は江戸末期築の邸宅を利用した、城下町の伝統が香り立つ佇まい。邸内のいたるところから名園を望み、幽邃な趣に心が吸い寄せられる。

金沢の料亭で修業した料理長は、毎朝、近江町市場で最良の食材をえり抜き、時には農産物生産者のもとへ足を運ぶ。「地元のもの、旬のものを揃えています。とくに気を配っているのは、一つの料理に山の幸と海の幸とを組み合わせること」。金沢が積み重ねた情景と北陸の旬味がもてなす特別な時間が、まことひそやかに流れている。

DATA  
 ☎ 076-256-1542 住 石川県金沢市小将町8-3  
 時 11時30分~14時30分、18時~22時、完全予約制  
 休 月曜(祝日は営業)、月2回火曜 席 テーブル席22席、個室3室  
 P 9台 料 昼6050円~、夜8470円~。お部屋代1室3240円(サービス料別途)

ユネスコ無形文化遺産  
和食  
石川・金沢

加賀藩の名園と北陸の山海を味わう

ぎ ゃ く せん てい  
かなざわ玉泉邸

山町筋



白壁土蔵の商家や赤レンガの銀行が並ぶ山町筋



山町筋にある「高岡御車山会館」に展示されている御車山



土蔵造りの家々が並ぶ山町筋。菅野家住宅など内部を見学できる施設もある

高岡の  
必見スポット

瑞龍寺

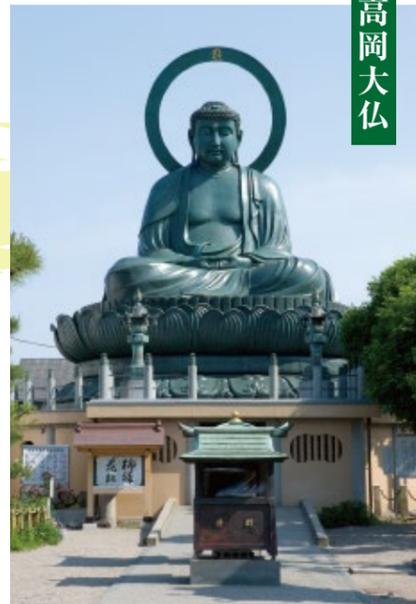


江戸初期の禅宗建築の典型的な伽藍配置が見られる瑞龍寺の山門。住 高岡市関本町35



手前が仏殿、奥が法堂。瑞龍寺は富山県唯一の国宝だ

高岡大仏



高さ約16mの青銅製の高岡大仏は高岡銅器のシンボル。住 高岡市大手町11-29

高

岡は、加賀2代藩主前田利長が築いた城下町で、前田家が発した商工業で町が発展。町民による文化が受け継がれてきた。往時の名残を随所にとどめる2カ所の重要伝統的建造物群保存地区があり、そのひとつが旧北陸道沿いに重厚な土蔵造りが立ち並ぶ山町筋です。この界隈に店を構えることは豪商の証だったとか。明治の大火を機に建て替えられた土蔵造りは、レンガの防火壁や強固な窓など華麗な意匠が見ものです。2016年には山町の高岡御車山祭がユネスコ無形文化遺産に登録され、通りには高岡御車山会館がオープン。

また、山町筋と並ぶ重伝建の金屋町は、全国トップシェアを誇る高岡銅器のルーツ。加賀藩主によって呼び寄せられた鋳物師たちが工房を構えたのが始まりで、今も鋳物工房や銅器店が点在します。

金屋町



鋳物工場が点在する金屋町。鋳物作品やアクセサリー販売のショップも並ぶ



明治初期から続く「鋳物工房利三郎」では鋳物体験も可能



古民家を改修した「高岡鋳物資料館」。鋳物師が使用した道具などを展示

日本遺産  
富山・高岡

加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡  
人、技、心

DATA

☎ 0766-20-1547 (高岡市観光協会)



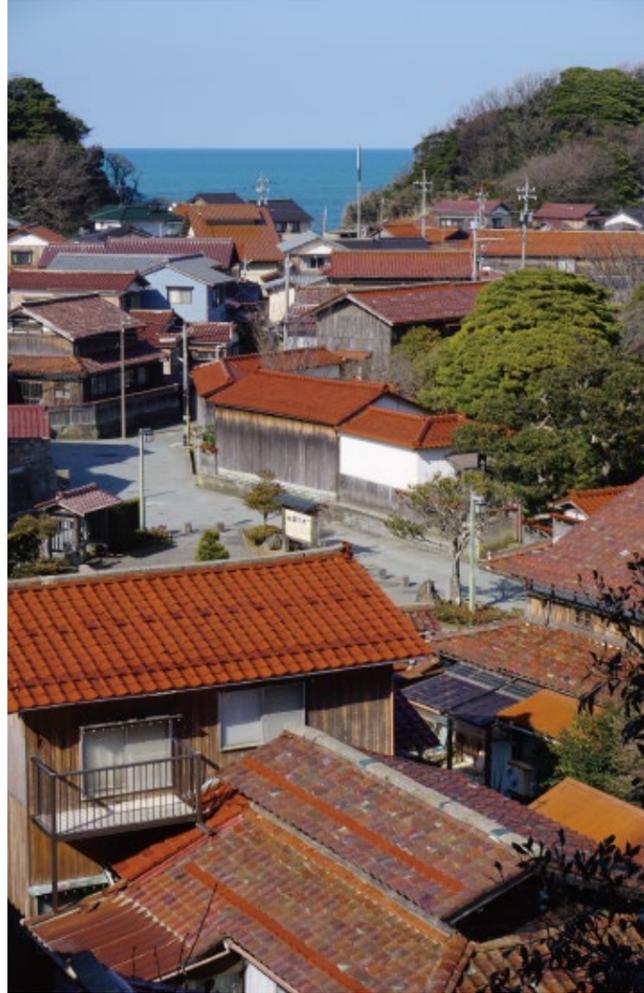
板塀めぐらした住宅が連なる橋立の集落



豪壮な北前船主屋敷を見学できる「北前船の里資料館」



国指定登録有形文化財の「北前船主屋敷蔵六園」



赤瓦の屋根の家が並ぶ橋立地区



笏谷石を積み上げた石垣が残る屋敷

日本遺産  
石川・加賀

荒波を越えた男たちの  
夢が紡いだ異空間

北前船寄港地・船主集落

か

つて北海道と大阪を日本海回りで結ぶ航路があり、北前船は海産物や米などの物資を寄港地で売買しながら航行。北前船寄港地には巨万の富を築いた船主たちの集落が各地に残り、その歴史を伝えるストーリーが日本遺産に認定されています。

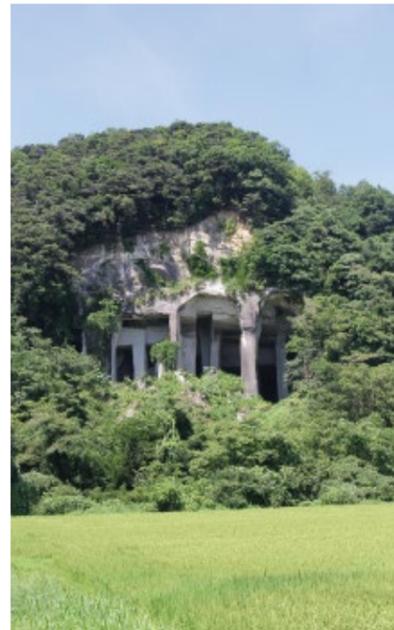
ここ加賀橋立も北前船で財産を築いた船主たちが暮らし、日本一の富豪村といわれたそう。船板を利用した外壁に赤瓦を葺いた家々や、笏谷石の石垣が残る船主集落は往時の面影を残し、重要伝統的建造物群保存地区にも指定されています。明治9年建築の北前船主の屋敷は橋立地区で現存する最大規模で、北前船の里資料館として公開。そのすぐそばにある北前船主屋敷蔵六園は江戸後期建築といわれ、全国の銘石を集めた庭園が見事です。

DATA

☎ 0761-72-7888 (加賀市文化振興課)



滝ヶ原のアーチ型石橋、丸竹橋は車も走る生活道路



滝ヶ原石が採掘された西山石切場跡



石切場や石橋をガイドが案内する石文化探索も実施

日本遺産  
石川・小松

「珠玉と歩む物語」小松

時の流れの中で  
磨き上げた石の文化



小松の石について詳しく展示紹介する小松市立博物館

弥

生時代にアクセサリとして流行した碧玉。小松は碧玉の産出地であり、八日市地方遺跡から管玉が発見されています。その精巧で高度な技術から、当時この地が玉づくりの生産地だったことが確認されました。また那谷地区は碧玉、メノウ、オパールなど多彩な鉱物の産出地。このエリアにある那谷寺では、メノウの庭石や碧玉の層を含む奇岩遊仙境を見ることが出来ます。小松はほかにもさまざまな鉱物に恵まれており、明治〜大正にかけて栄えた遊泉寺銅山は建機メーカー・コマツのきっかけとなりました。伝統工芸九谷焼の原料の陶石は花坂地区で採れ、建築などに使われる滝ヶ原石の産地、滝ヶ原地区には古いアーチ型石橋が5つ現存。ノスタルジックな姿が印象的です。

DATA

☎ 0761-24-8076 (小松市観光交流課)